**飼育下エボシドリ科鳥類に認められた血液寄生原虫（MS明朝サイズ１４太字）**

○水主川　剛賢1,2，小野　文菜3, 浅川 満彦2，佐藤 雪太3（1神戸どうぶつ王国，2酪農学園大学大学院・獣医学研究科獣医寄生虫病学ユニット, 3日本大学・獣医・実験動物）（MS明朝サイズ10.5）

＜一行あける＞

**Haematozoan Infections in Captive Musophagidae Birds（Centuryサイズ12太字）**

○Masayoshi Kakogawa1,2, Ayana Ono3, Mitsuhiko Asakawa2, Yukita Sato3（1 Kobe Animal Kingdom, 2 Laboratory of Veterinary Parasitology, Graduate School of Veterinary Medicine, Rakunogakuen University, 3Laboratory of Biomedical Science, Department of Veterinary Medicine, Nihon University）（Centuryサイズ10.5）

＜二行あける＞

[目的] 神戸どうぶつ王国では3種のエボシドリ科鳥類を飼育している.2016年2月にギニアエボシドリの血液塗抹中に原虫寄生赤血球を認め,DNA解析により*Haemoproteus*属原虫に分類された. そこで,他の飼育個体における原虫保有状況を明らかにするため,当施設のエボシドリ科鳥類の血液から原虫の検出を試みた.

[材料および方法] 2016年5月および6月に,当施設で飼育しているギニアエボシドリ4羽,ハイイロエボシドリ1羽,およびニシムラサキエボシドリ１羽から採血し,一部は塗抹してディフクイック染色した.残りの血液からDNAを抽出し,鳥マラリア原虫(*Plasmodium*属, *Haemoproteus*属)および*Leucocytozoon*属原虫のミトコンドリアDNAcyt*b*遺伝子の部分領域を標的としたnested-PCR(Hellgren *et al*., 2004; Ejiri *et al*., 2008)を実施した.増幅が見られた場合は塩基配列を決定し,既知の鳥類血液原虫の塩基配列と比較し分子系統関係を解析した.

[結果と考察] 現在までに,ギニアエボシドリ4羽中3羽から*Plasmodium* / *Haemoproteus*属原虫,ハイイロエボシドリ1羽から*Leucocytozoon*属原虫のDNA増幅がそれぞれ認められ,塩基配列を解析中である.2016年2月に当施設のギニアエボシドリから検出された*Haemoproteus*属原虫系統と同一または近縁な相同性が高い原虫はこれまでに国内では確認されておらず,このギニアエボシドリは導入元の地域で原虫に感染した可能性が考えられる.現在,ギニアエボシドリ1羽で元気および食欲減退,緑色の下痢,貧血(ヘマトクリット値の低下)等の臨床症状が認められているが,原虫感染との相関は不明である.また飼育個体間での原虫の伝播の有無も不明である.飼育下鳥類の健康管理上,今後も継続して個体の状態を観察するとともに,定期的な血液検査による原虫感染の有無,媒介昆虫の調査も必要であると考える.

（MS明朝サイズ10.5,句読点は「,.」を使用）　一演題の要旨は一頁以内におさめる。